参考２－１

令和７年度　１学期

府中市標準学力調査
考察資料

小学校

前期課程

調査目的

●府中市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

●調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

●府中市内の小学校の2・3・4・5・6年生の児童
●調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

正答率
各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。

標準スコア
全国平均の正答率を５０とした時の換算値。

目標値（目標準拠評価方式のみ）
学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

府中市教育委員会

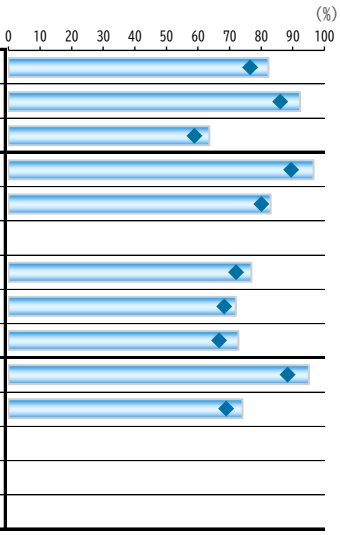
小2 国語

「知識・技能」が良好である

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

		目標値	自治体
	教科全体	76.5	82.3
	基礎	86.0	92.3
	活用	58.8	63.6
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	89.4	96.6
領域別	情報の扱い方に関する事項	80.0	83.0
領域別	我が国の言語文化に関する事項		
領域別	話すこと・聞くこと	72.0	76.9
領域別	書くこと	68.3	72.0
領域別	読むこと	66.7	72.8
観点別	知識・技能	88.3	95.1
観点別	思考・判断・表現	68.9	74.1

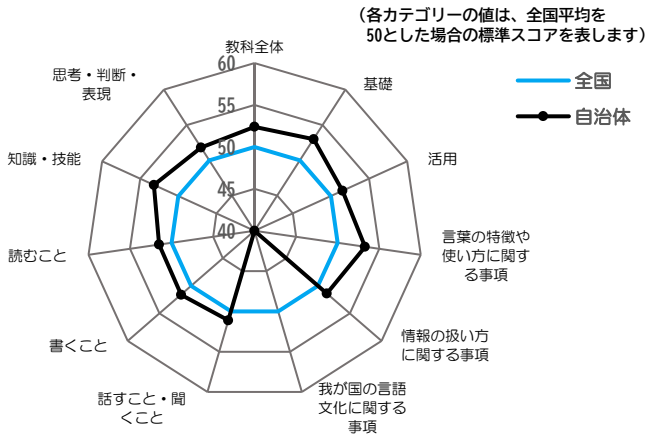


分析コメント

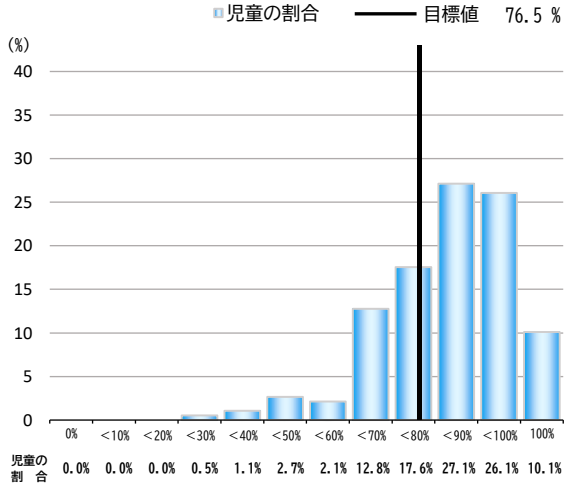
小２国語は、教科全体の正答率が82.3%で、目標値を5.8ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「知識・技能」が95.1%で、目標値を6.8ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

おくりものについてはなしあう　大問6(1)

＜ねらい＞　話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。

目標値　80.0%　正答率　76.1%　差　▲ 3.9 ポイント

指導のポイント　話し合いで最も重要なことは、何のための話し合いなのかという目的である。本問では、転校する「あおいさん」への贈り物を決めるという目的を押さえてから、三人の話し合いを読んでいくと、贈り物を「うさぎのえがついたハンカチ」に決めたことが分かる。こうした話し合いの問題では、自分もその場に参加しているつもりで話し合いの流れを見ていくようにするとよい。なお、実際の話し合いでも、漠然と人の意見を聞いているのではなく、目的を押さえた上で、相手が何を伝えたいのか、自分が知りたいことは何かということを考えながら参加するように指導したい。

文しょうをかく　大問7

＜ねらい＞　伝えたいことを明確にしている。

目標値　85.0%　正答率　85.1%　差　0.1 ポイント

指導のポイント　１文でもよいので、文を書くことができるかを見る問題である。国語の時間に限らず、日頃から書く場面を設け、低学年のうちから書くことに抵抗がない児童を育てることが大切である。例えば、楽しかったこと、面白かったことなど、児童が口頭で話した内容をきちんとした文にして書かせたり、目の前で起きていることを文で表現させたりする指導が有効である。

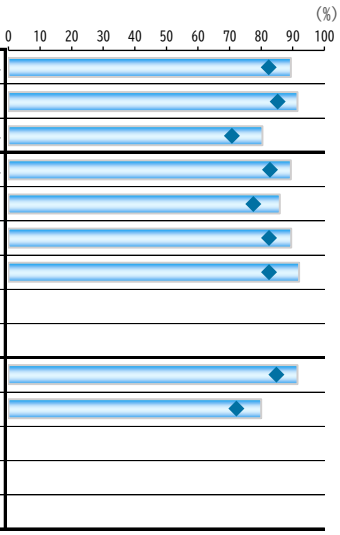
小2 算数

「思考・判断・表現」が良好である

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

		目標値	自治体
	教科全体	82.4	89.4
	基礎	85.2	91.5
	活用	70.7	80.4
領域別	数と計算	82.8	89.4
領域別	図形	77.5	85.9
領域別	測定	82.5	89.5
領域別	データの活用	82.5	92.0
観点別	知識・技能	84.8	91.5
観点別	思考・判断・表現	72.1	80.0



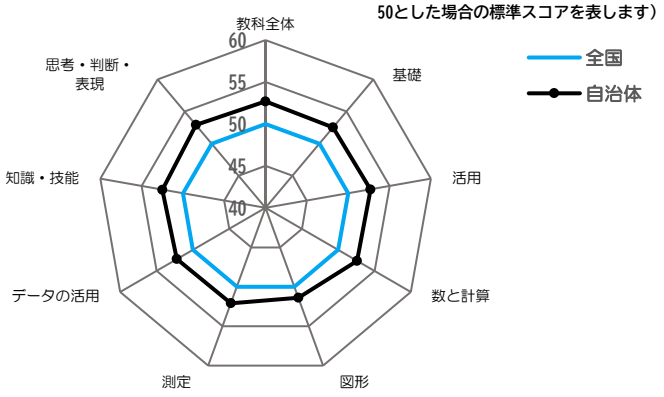
分析コメント

小２算数は、教科全体の正答率が89.4％で、目標値を7.0ポイント上回った。

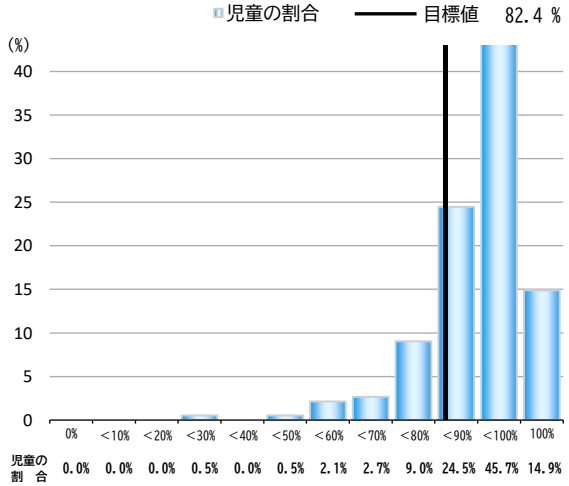
観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が80.0％で、目標値を7.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較

（各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します）



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

とけい　大問16(1)

＜ねらい＞　何時何分を示す時計を理解している。

目標値　90.0%　正答率　87.8%　差　▲ 2.2 ポイント

指導のポイント　時計の表示の仕方は十進法ではなく、児童には難しく感じられる内容であるため、日頃から、文字盤の数字と実際の時刻とを結び付けて理解させることが大切である。児童が時計の読みに慣れるまで、教室の時計に長針のための数字を小さく書いておくことも有効である。時計の読みは、日常生活でも必要な技能であるので、単元終了後も、学校生活の中で適宜指導していきたい。

３つのかずのけいさん　大問9しき

＜ねらい＞　文章問題（３口の加減混合の場面）を解くために立式をしている。

目標値　90.0%　正答率　91.5%　差　1.5 ポイント

指導のポイント　３口の数の加減混合の問題である。３口の数の計算問題で立式させる場合、「みんなで」「あわせて」「ぜんぶで」「のこりは」「ちがいは」といった言葉が問題文の中にあるときはその言葉に着目させ、加法と減法のどちらを使う場面なのかを考えさせる必要がある。場面を正しく捉えられない児童には、時間の経過に沿って分けられた問題場面の絵を提示したり、その絵や問題に合わせてブロックを操作させたりして、理解を確実なものとしたい。

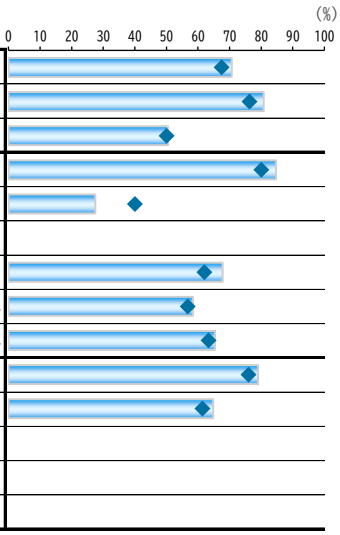
小3 国語

「思考・判断・表現」が良好である

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

		目標値	自治体
	教科全体	67.5	70.7
	基礎	76.3	80.8
	活用	50.0	50.5
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.0	84.7
領域別	情報の扱い方に関する事項	40.0	27.5
領域別	我が国の言語文化に関する事項		
領域別	話すこと・聞くこと	62.0	67.8
領域別	書くこと	56.7	58.4
領域別	読むこと	63.3	65.4
観点別	知識・技能	76.0	79.0
観点別	思考・判断・表現	61.4	64.8

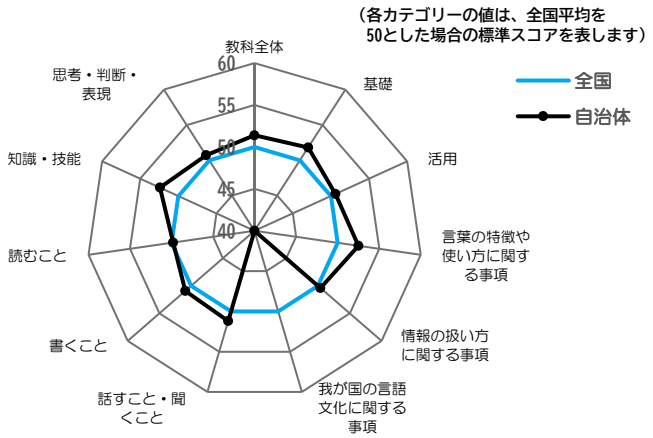


分析コメント

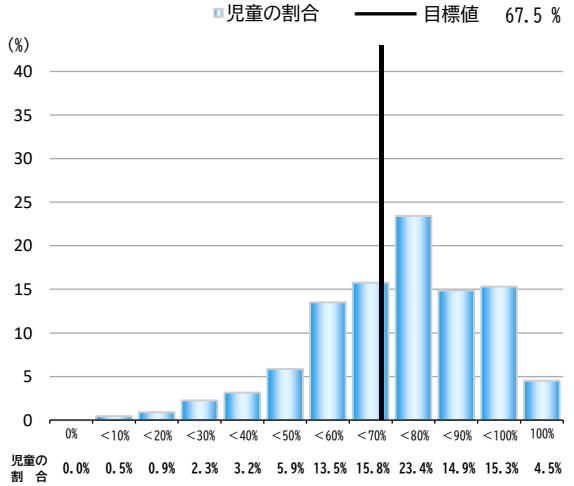
小３国語は、教科全体の正答率が70.7％で、目標値を3.2ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が64.8％で、目標値を3.4ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

ことばの学しゅう　大問3(4)

＜ねらい＞　共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。

目標値　40.0%　正答率　27.5%　差　▲ 12.5 ポイント

指導のポイント　事柄の順序は、一定の観点に基づいて情報と情報とが関連付けられているものである。観点としては、時間、作業工程、重要度などが挙げられる。また、事柄の順序は、文章を読むときにも活用していくことができる。例えば、物語や小説などについては、時間の順序によって場面が展開されていることが多い。事柄の順序は、そうした読むことの学習でも、児童に意識させたいものの一つである。

ものがたりを読みとる　大問4(3)

＜ねらい＞　場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。

目標値　50.0%　正答率　45.9%　差　▲ 4.1 ポイント

指導のポイント　話の流れに合うように、四つの絵を順に並べる問題である。日頃から、言葉を絵や写真といった、イメージを具体的に表現したものと結び付ける活動を取り入れることが大切である。また、どの絵がどの場面の様子を表しているのかを把握するためには、文章の内容を正確に読み取り、その流れを理解しなければならない。音読指導を取り入れ、耳で聞いて文章の内容をつかむ練習により、そのような力を身に付けさせたい。

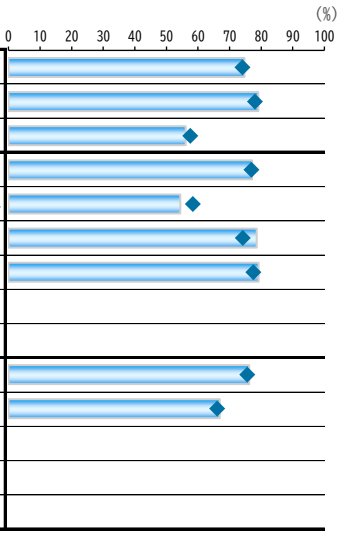
小3 算数

「思考・判断・表現」が良好である

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

		目標値	自治体
	教科全体	74.0	74.7
	基礎	78.0	79.1
	活用	57.5	56.1
領域別	数と計算	76.9	77.1
領域別	図形	58.3	54.4
領域別	測定	74.2	78.6
領域別	データの活用	77.5	79.2
観点別	知識・技能	75.6	76.2
観点別	思考・判断・表現	66.0	66.9



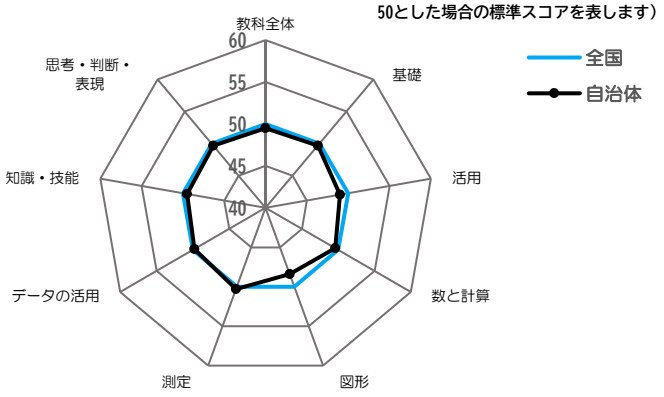
分析コメント

小３算数は、教科全体の正答率が74.7％で、目標値を0.7ポイント上回った。

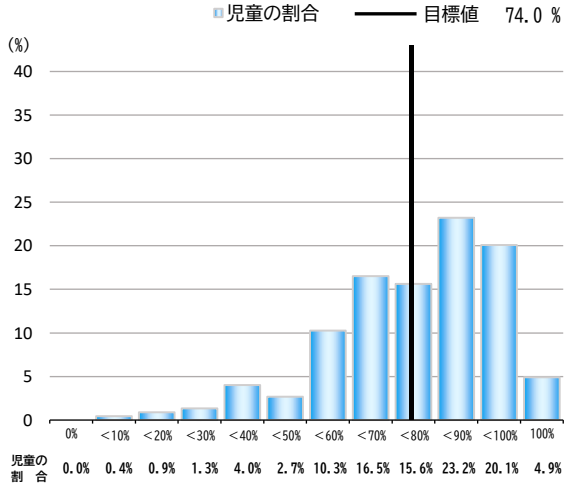
観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が66.9％で、目標値を0.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較

（各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します）



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

１００００までの数・分数　大問3

＜ねらい＞　数の大小と不等号の意味を理解している。

目標値　65.0%　正答率　48.2%　差　▲ 16.8 ポイント

指導のポイント　２つの数の不等号が成り立つように、一方の数の十の位に当てはまる数字を全て答える問題である。不等号は等号と違っていくつも正答があり、この問題の場合、０、１、２の３つの数字が当てはまる。指導に当たっては、不等号と等号の違いや、ある数よりも大きい数や小さい数はいくつもあるということを、数直線などを用いて理解させることが大切である。

かけ算　大問6

＜ねらい＞　基準となるテープの３倍の長さのテープを選ぶことができる。

目標値　75.0%　正答率　63.4%　差　▲ 11.6 ポイント

指導のポイント　乗法について、（１つ分の数）×（いくつ分）＝（全部の数）と学習するが、同時に、（もとにする大きさ）×（３つ分）のときの３つ分を３倍と表すことも学習する。倍の学習では、もとにする大きさ（基準量）が何なのかを判断することが大切である。倍の学習は今後、整数倍、小数倍、分数倍の各学習へと発展していくので、第２学年の段階で、基準量のいくつ分という見方もできるようにしておきたい。

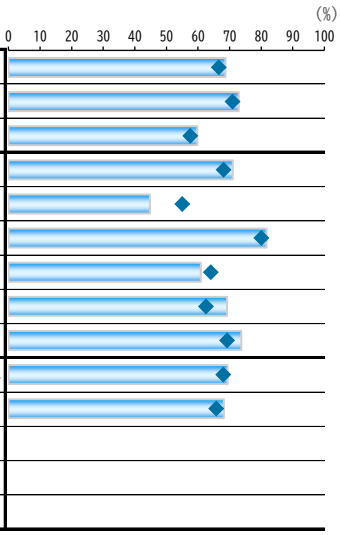
小4 国語

「思考・判断・表現」が良好である

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

		目標値	自治体
	教科全体	66.6	68.7
	基礎	70.9	72.9
	活用	57.5	59.8
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.1	71.0
領域別	情報の扱い方に関する事項	55.0	44.8
領域別	我が国の言語文化に関する事項	80.0	81.7
領域別	話すこと・聞くこと	64.0	60.9
領域別	書くこと	62.5	69.2
領域別	読むこと	69.2	73.7
観点別	知識・技能	68.0	69.4
観点別	思考・判断・表現	65.7	68.2

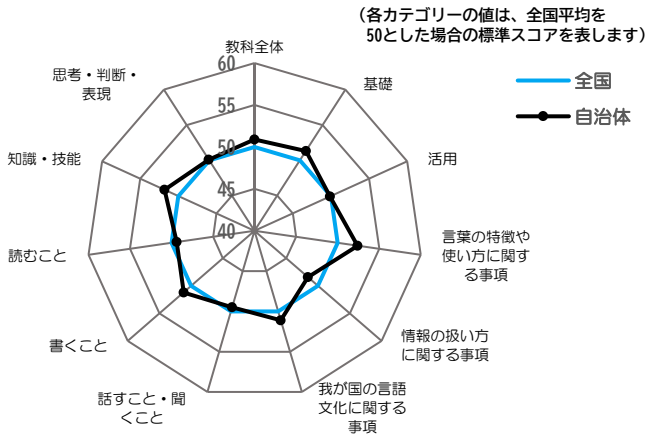


分析コメント

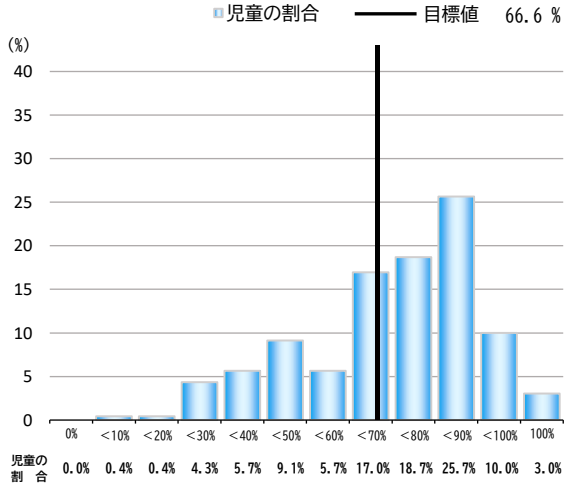
小４国語は、教科全体の正答率が68.7％で、目標値を2.1ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が68.2％で、目標値を2.5ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

言葉の学習　大問3(1)

＜ねらい＞　主語と述語との関係について理解している。

目標値　60.0%　正答率　47.8%　差　▲ 12.2 ポイント

指導のポイント　主語には、「は」や「が」の助詞が付くことが多いが、「も」「こそ」「だって」などが付く場合もある。「は」や「が」だけを押さえさせるのではなく、述語との関係で考えさせたい。また、述語は、主語と述語の倒置などの特別な場合を除き、文末にくる。「どうする」「どんなだ」「なんだ」といった文の意味を決定付けるものであり、そのことを押さえておけば、文の中で述語を見つけやすい。

交流会について話し合う　大問6(2)

＜ねらい＞　司会の役割を果たしながら話し合い、考えをまとめている。

目標値　40.0%　正答率　30.0%　差　▲ 10.0 ポイント

指導のポイント　本問の空欄がある、司会の最後の発言では、おにごっこの提案と、その際のルールを確認している。本問では、ルールについて、〈注意する点〉にあるように「中原さん」と「北野さん」の二人の発言を基にしてまとめる。「中原さん」は一年生と四年生が二人一組になって手をつなぐことを、「北野さん」は一年生のスピードに合わせて走ることを発言しているので、それらを空欄に入るように一文にして書けばよい。空欄に入る内容を考える問題では、空欄の前後の文脈からどのような内容が入るのかを予測したり、出された条件をヒントにしたりして考えることがポイントになる。

小4 算数

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

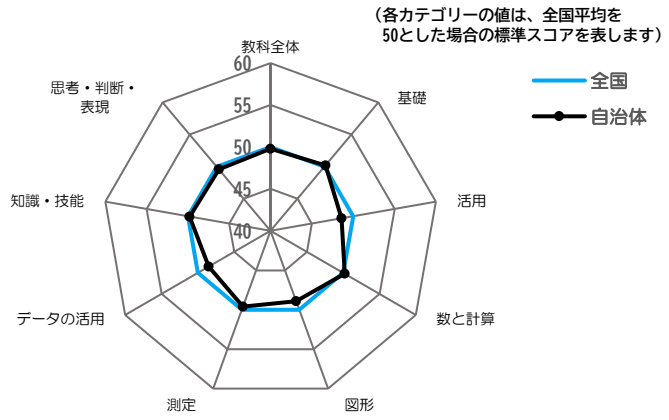
		目標値	自治体
	教科全体	71.6	72.0
	基礎	75.0	76.5
	活用	59.3	55.7
領域別	数と計算	71.7	72.3
領域別	図形	81.7	81.5
領域別	測定	70.0	71.1
領域別	データの活用	60.0	56.3
観点別	知識・技能	75.4	76.1
観点別	思考・判断・表現	57.9	57.1

分析コメント

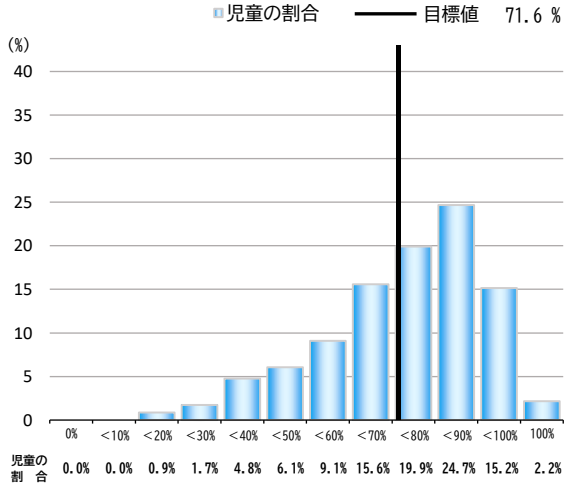
小４算数は、教科全体の正答率が72.0％で、目標値を0.4ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が76.1％で、目標値を0.7ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が57.1％で、目標値を0.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

わり算　大問15

＜ねらい＞　余りを切り上げて答えを求めることができ、その理由を説明している。

目標値　60.0%　正答率　49.8%　差　▲ 10.2 ポイント

指導のポイント　日常では、余りをどのように処理するのかを考える場面がある。そのときに、余りを捨ててしまうのか、余りも使うのかによって処理の仕方が異なる。余りのある計算の技能を高めることも大切であるが、導き出した計算結果を問題場面に戻って考察することも大切である。本問では、全部のお弁当を袋に入れるので、袋が一杯にならなくてももう１枚必要になることを、図や言葉で説明できるように指導したい。

表とぼうグラフ　大問14(2)

＜ねらい＞　棒グラフを読み取り、校庭の落とし物の数が音楽室の何倍かを求めることができる。

目標値　35.0%　正答率　25.1%　差　▲ 9.9 ポイント

指導のポイント　棒グラフは、２つ以上の同種の数量を棒の長さで表して、その長短を比較することによって量の大小を判断するグラフである。棒グラフは、次のようなことに気を付けて読み取る必要がある。①表題を見て、何のグラフかを知る、②縦軸・横軸が何を表しているのか、単位、１目盛りの大きさをつかむ、③目的に応じて、個々の棒が表している数量の大きさを正しく読み取る、④最大値・最小値を押さえる、⑤棒の表す数量を比較する（差、割合）。本問のグラフで棒の表す数量を比較したとき、校庭の落とし物の数は、音楽室の落とし物の数の８倍であることを理解させたい。

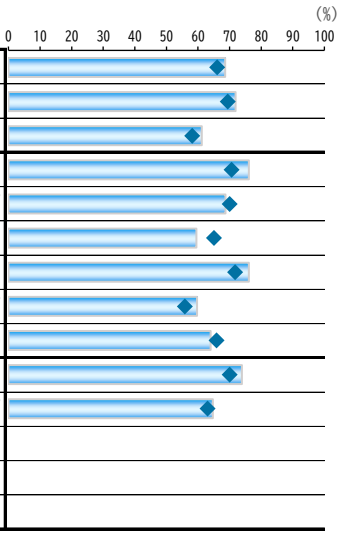
小5 国語

「知識・技能」が良好である

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

		目標値	自治体
	教科全体	66.0	68.6
	基礎	69.4	71.9
	活用	58.1	61.2
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.6	76.1
領域別	情報の扱い方に関する事項	70.0	68.7
領域別	我が国の言語文化に関する事項	65.0	59.5
領域別	話すこと・聞くこと	71.7	76.1
領域別	書くこと	55.8	59.7
領域別	読むこと	65.8	64.0
観点別	知識・技能	70.0	73.9
観点別	思考・判断・表現	63.0	64.7

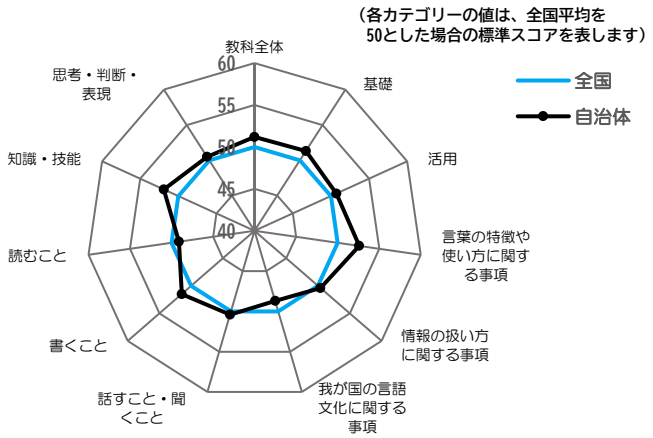


分析コメント

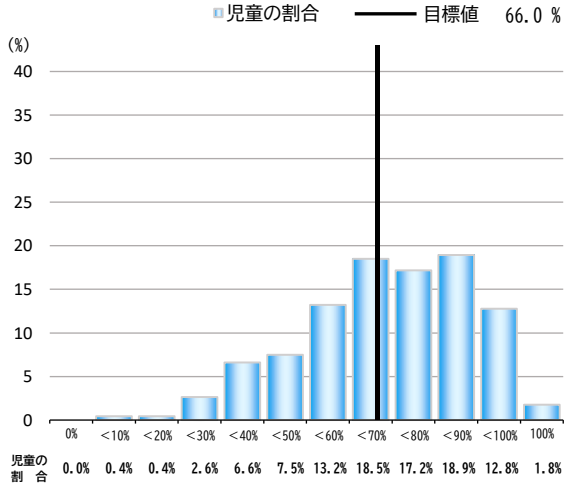
小５国語は、教科全体の正答率が68.6％で、目標値を2.6ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「知識・技能」が73.9％で、目標値を3.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

調べたことをもとに文章を書く　大問6(2)

＜ねらい＞　自分の考えとそれを支える事例との関係を明確にして書いている。

目標値　40.0%　正答率　23.8%　差　▲ 16.2 ポイント

指導のポイント　本問の空欄は、「具体的に言うと」からつながる内容である。何の具体的な内容であるのかを考えると、「地元の人たちみんなで夏祭りを作っている」ことの具体例であることが分かる。さらに、〈注意する点〉をヒントに考えると、「(1)昨年の夏祭りに行った人の話」から「地元の人のグループが成果を発表してい」ること、「(2)夏祭り実行委員長の話」から「多くの人がじゅんびに関わっている」ことが分かる。これらをつなぎ合わせて、空欄に入るような適切な言葉を書けばよい。こうした問題では、まず空欄にどのような内容が入るのかを予測することが重要である。

説明文の内ようを読み取る　大問5(2)

＜ねらい＞　叙述を基に段落相互の関係を捉えている。

目標値　60.0%　正答率　52.0%　差　▲ 8.0 ポイント

指導のポイント　段落の役割を理解するためには、①段落ごとの内容を理解しながら、②文章全体で何を主張・説明しているのかを把握した上で、③各段落がその主張・説明のためにどのような働きをしているのかという視点で整理をしなければならない。正答できなかった児童が、①から③のどの段階でつまずいているのかを分析した上で、適切な指導をする必要がある。普段の授業で、段落ごとの内容を簡潔にまとめる習慣、及び接続語や段落の書き出しの一文に注目して段落相互の関係性を確認しながら読み進める習慣を身に付けさせておきたい。

小５ 算数

「思考・判断・表現」が良好である

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

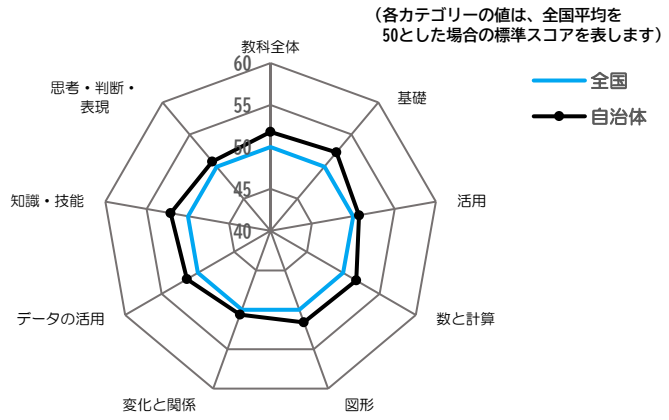
		目標値	自治体
	教科全体	65.9	71.9
	基礎	68.5	74.8
	活用	59.4	64.4
領域別	数と計算	68.6	74.3
領域別	図形	62.2	68.2
領域別	変化と関係	63.3	68.9
領域別	データの活用	61.7	72.5
観点別	知識・技能	68.5	74.3
観点別	思考・判断・表現	59.4	65.6

分析コメント

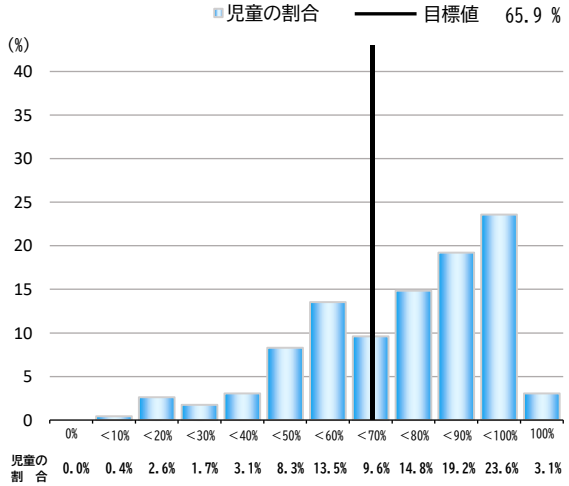
小５算数は、教科全体の正答率が71.9％で、目標値を6.0ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「思考・判断・表現」が65.6％で、目標値を6.2ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

わり算・計算のきまり　大問8(2)

＜ねらい＞　計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選んでいる。

目標値　70.0%　正答率　65.5%　差　▲ 4.5 ポイント

指導のポイント　総合式は、分解式よりも考え方を表すのに適している。第４学年では、自分の考えを総合式に表したり、総合式から考えを読み取ったりする力を身に付けることが大切である。例えば、文章問題に合った総合式を書かせる問題を提示することも有効である。その場合、分解式で書いた児童に対しては、「１つの式で表しましょう」などと働きかけを行ったり、総合式で表す便利さやよさを実感させたりするとよい。

変わり方調べ　大問14(2)

＜ねらい＞　伴って変わる２つの数量の関係を式に表すことができる。

目標値　50.0%　正答率　46.3%　差　▲ 3.7 ポイント

指導のポイント　伴って変わる２つの数量についての学習では、変化の様子を表に表し、その表から変化のきまりを見つけていく。表の見方には、表を横に見る方法と縦に見る方法があり、このうち式に表すことができるのは、縦に見る方法である。式に表すと、伴って変わる２つの数量の一方の値がいくつのときでも、もう一方の値を求めることのできるよさがある。そのよさが分かるように指導することが大切である。

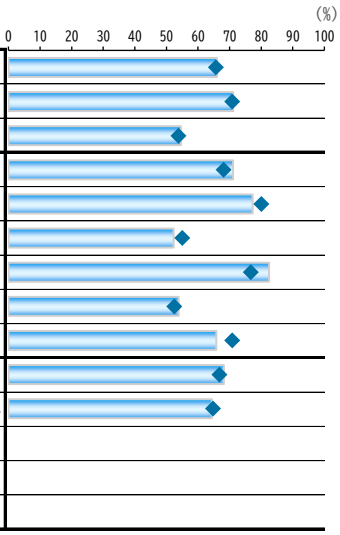
小6 国語

「思考・判断・表現」の定着に課題が残る

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

		目標値	自治体
	教科全体	65.6	66.0
	基礎	70.8	71.1
	活用	53.8	54.6
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.1	71.1
領域別	情報の扱い方に関する事項	80.0	77.3
領域別	我が国の言語文化に関する事項	55.0	52.3
領域別	話すこと・聞くこと	76.7	82.5
領域別	書くこと	52.5	53.9
領域別	読むこと	70.8	65.8
観点別	知識・技能	66.8	68.2
観点別	思考・判断・表現	64.7	64.4



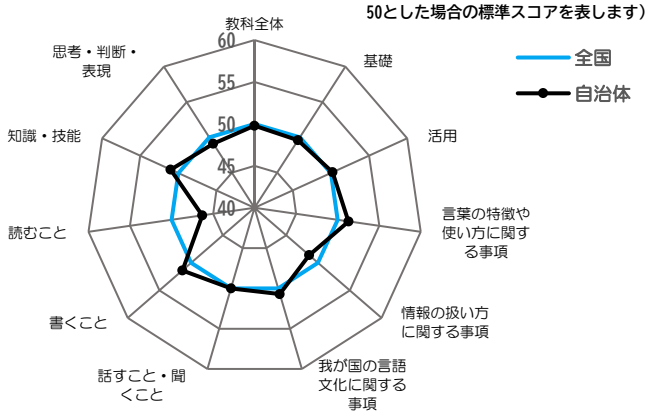
分析コメント

小６国語は、教科全体の正答率が66.0％で、目標値を0.4ポイント上回った。

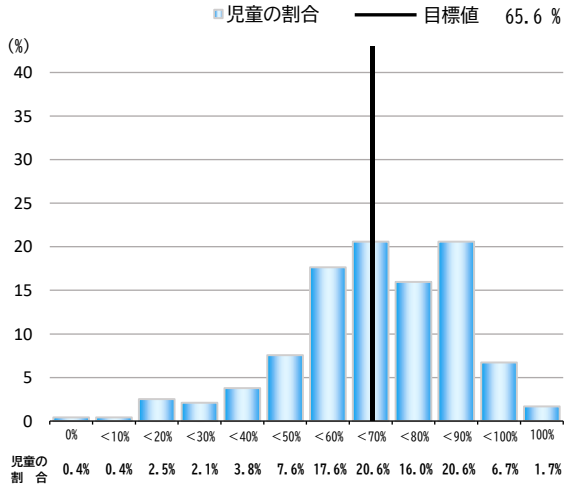
観点別に正答率を見ると、「知識・技能」が68.2％で、目標値を1.4ポイント上回った。一方、「思考・判断・表現」が64.4％で、目標値を0.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較

（各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します）



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

言葉の学習　大問3(1)

＜ねらい＞　敬語について理解し、正しく使っている。

目標値　50.0%　正答率　33.6%　差　▲ 16.4 ポイント

指導のポイント　正しい敬語の使い方が身に付いているかを見る問題である。敬語については、特に動作の主体によって、尊敬語を使うのか、謙譲語を使うのかが決まることを理解させたい。本問のような動詞の場合、普通の言い方に対して、尊敬の動詞による表現、謙譲の動詞による表現について整理させる。また、敬語を実際の生活の中で使うことができるようにするために、授業だけでなく学校生活全般にわたっての、丁寧な指導を継続していくことも必要となる。

報告する文章を書く　大問6(2)

＜ねらい＞　目的に応じて、文章を簡単に書いている。

目標値　40.0%　正答率　25.2%　差　▲ 14.8 ポイント

指導のポイント　本問は、〈注意する点〉に示された条件を踏まえて、必要な内容を取り上げ、制限字数内で記述する条件作文である。その前提として、「おはしを正しく持って使うこと」によって生まれてくるメリットについて記述している箇所を、「（2）おはしの働き」と「（3）おはしの使い方のマナー」の内容から拾い出すことができていなければならない。つまずいている児童には、つまずきの原因が、〈注意する点〉に挙げられている条件を満たしていない点にあるのか、その前提としての読解にあるのかを見極めて、それぞれに対応した補充的指導を加えていく必要がある。

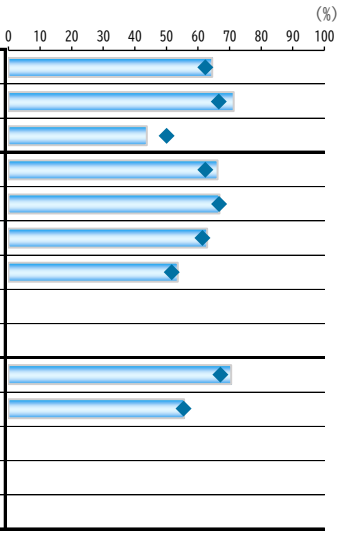
小6 算数

「知識・技能」が良好である

正答率一覧

(単位%)　◆=目標値

		目標値	自治体
	教科全体	62.3	64.5
	基礎	66.5	71.3
	活用	50.0	43.8
領域別	数と計算	62.3	66.2
領域別	図形	66.7	66.8
領域別	変化と関係	61.4	62.9
領域別	データの活用	51.7	53.6
観点別	知識・技能	67.1	70.5
観点別	思考・判断・表現	55.4	55.6

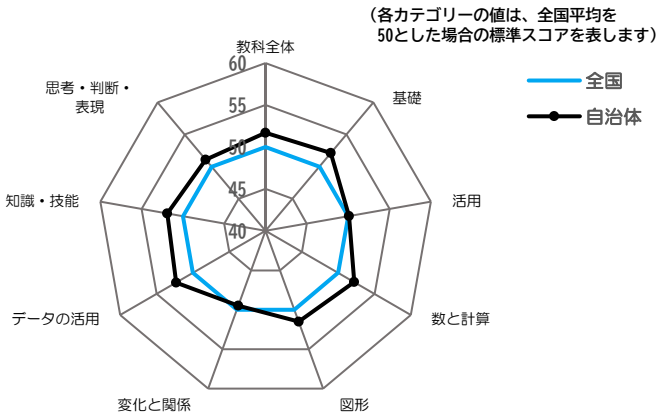


分析コメント

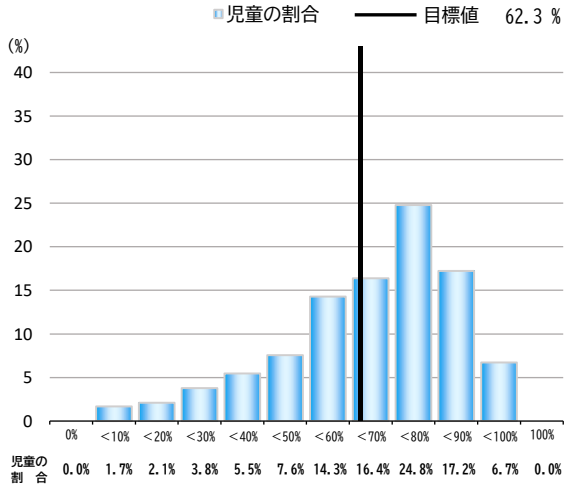
小６算数は、教科全体の正答率が64.5％で、目標値を2.2ポイント上回った。

観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「知識・技能」が70.5％で、目標値を3.4ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

割合　大問17(2)

＜ねらい＞　基準量と比較量から割合を求めることができる。

目標値　40.0%　正答率　21.0%　差　▲ 19.0 ポイント

指導のポイント　「割合＝比べられる量÷もとにする量」という公式は知っていても、基準量と比較量を逆に捉えて計算してしまう児童がいる。それに対する手立てとしては、まず、「２Ｌは６Ｌの何％か」といった簡単な数値の式に置き換えて考えることが挙げられる。次に、数直線に表すことが考えられる。小数や分数で割合を表す場合は、基準量を１と見て、比較量がいくつに当たるかを数で表すのに対して、百分率では基準量を100と見て表す。このことを、具体例を示し、数直線で表して理解させたい。

立体と体積　大問18(2)

＜ねらい＞　直方体に入れた土の体積から、ふくろに残っている土の体積の求め方を説明している。

目標値　30.0%　正答率　11.8%　差　▲ 18.2 ポイント

指導のポイント　プランターに入れた培養土の量を求め、初めにあった量からひいて残りの培養土の量を求めるという、簡単な減法の場面である。しかし、体積を求めるのに体積の公式を使ったり、元の培養土の袋の量を示したりと、いざ、説明するとなると難しい。算数では、式や言葉、図を使って、相手に分かりやすく伝えることが大切である。日頃の学習から、自分の考えを式、図、言葉を使って表したり、式、図、言葉を使って相手に分かりやすく伝える場面を設定したりして、説明する力を身に付けさせたい。